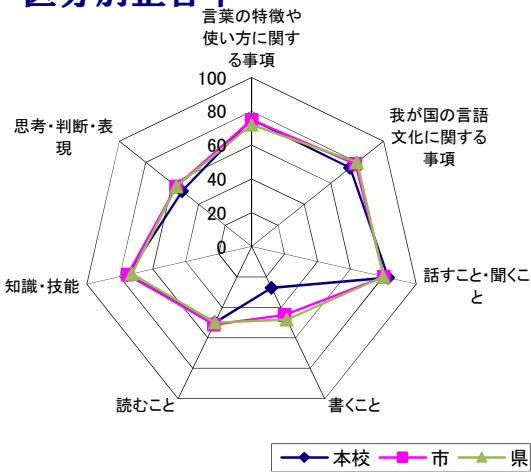


宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.3	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	74.7	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	82.9	80.4	80.0
	書くこと	27.2	45.1	48.0
	読むこと	50.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	75.3	75.2	72.8
	思考・判断・表現	52.5	57.0	57.0



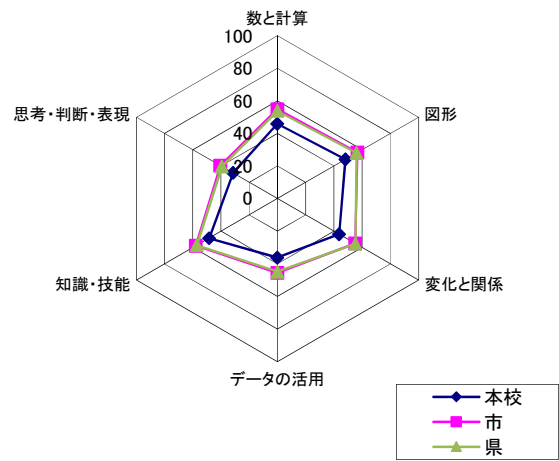
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○本領域の平均正答率は75.3%で、県の正答率を3.3ポイント上回った。 ○漢字の読み書きの問題は、県の正答率とほとんど同じである。 ●『『夜から』が修飾している言葉を選ぶ。』の平均正答率は8.9%で、県の正答率を6.2ポイント下回った。修飾と被修飾の関係を捉えることに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きの問題については全体的に正答率が高いが、今後も定期的に既習の漢字を確認できる課題を出し、習熟を図ることができるようにする。 ・文章の構成を考える際に、言葉の色ごとに困んだり矢印で結んだりするなどして、主語と述語の関係について理解を深めるとともに、修飾と被修飾の関係にも気を付けて理解することができるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●本領域の平均正答率は74.7%で、県の正答率を5.2ポイント下回った。慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることに課題が見られる。	・慣用句については、先人の知恵や教訓、機知に触れながら言葉の意味を理解させ、それを使った例文を考えるなどして自分の表現に用いることができるようにする。また、慣用句以外にも、ことわざや故事成語などの意味を知り、日常生活で用いることができるようにする。
話すこと・聞くこと	○本領域の平均正答率は82.9%で、県の正答率を2.9ポイント上回った。 ○「音声を聞いてその内容をもとに考えをまとめる問題」の平均正答率は69.6%で、県の正答率を4.8ポイント上回った。グループごとに話をまとめ整理するなどの学習を行ってきた成果であると考えられる。	・グループごとの話し合いでは、今後も司会者や参加者などを決めて進めることで、それぞれの役割の意味を理解したり、グループの発言を基に考えをまとめたりすることができるようにする。その際、必要に応じて進行表などを準備しておき、進行の仕方を確認することができるようにする。考えが最終的に一つにまとまらない場合にも、出された意見やそれらの相違点、今後の話し合いの課題などを確認する。
書くこと	●本領域の平均正答率は27.2%で、県の正答率を20.8ポイント下回った。 ●自分の考えを文章にまとめる問題に課題が見られる。無回答率も43.0%と高く、書くことに対して、抵抗のある児童も多い。	・各教科・単元でめあてを立てたり、振り返りを書いたりする際にはキーワードを提示し、的を射た内容の文章が書けるようにする。また、文型や接続語などを掲示し、日常的に使うことで身近な言葉として習得できるようにする。 ・テーマや量を工夫した自由作文を定期的に取り入れることで、書くことへの抵抗感を減らせるようにする。 ・司書と協力しながら各教科・単元に関連する並行読書やブックトーク等を行うことで読書に興味をもち、語彙を豊かにしていけるような環境を整える。
読むこと	○本領域の平均正答率は50.0%で、県の正答率と同じである。 ○「説明文において段落相互の関係を捉える問題」の平均正答率は45.6%で、県の正答率を11.5ポイント上回った。指示語や接続語の意味を理解し文章の内容を捉えることができたと考えられる。 ●「登場人物の気持ちの変化を想像し言葉で書く問題」の平均正答率は24.1%で、県の正答率を10.7ポイント下回った。	

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	45.9	54.9	53.7
	図形	48.1	56.6	56.1
	変化と関係	43.7	55.1	55.2
	データの活用	36.2	45.5	44.8
観点	知識・技能	48.5	57.8	57.2
	思考・判断・表現	31.5	40.6	39.5



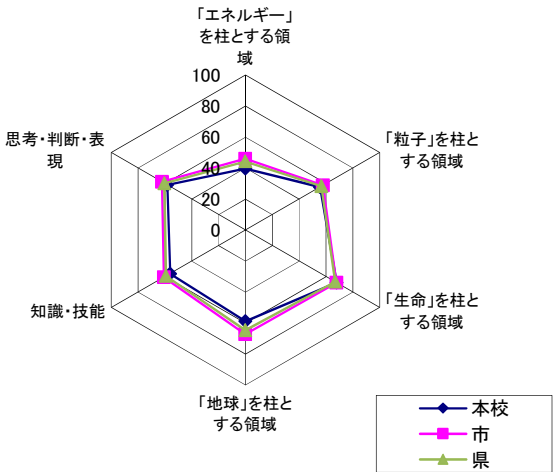
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●本領域の平均正答率は45.9%で、県の正答率を7.8ポイント下回った。 ●「小数第一位÷整数＝小数第二位の計算をする。」の平均正答率は32.9%で、県の正答率を17.4ポイント下回った。 ●「3けた÷2けた＝2けた(余りあり)の計算をする。」の平均正答率は48.1%で、県の正答率を13.6ポイント下回った。 ○「83兆は83億の何倍か答える。」の平均正答率は31.7%で、県の正答率を5.8ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・わり算に対して苦手意識が強い児童が多く、わり算の筆算の仕方を授業で扱う時に計算の仕方を確認していく。 ・小数の概念についても、授業で小数を扱う際に前学年の内容を振り返って確認していく。 ・わり算の筆算や小数について、朝の学習の時間でプリント学習を活用し、反復練習を行うことで定着を図る。 ・概数の概念を身に付け、わり算の筆算において商をたてるときにおおよその数で商を考えられるよう繰り返し指導していく。
図形	●本領域の平均正答率は48.1%で、県の正答率を8.0ポイント下回った。 ●「平行四辺形の作図をする。」の平均正答率は30.4%で、県の正答率を15.3ポイント下回った。 ●「直方体の面に垂直な辺をすべて答える。」の平均正答率は46.8%で、県の正答率を10.8ポイント下回った。 ○「三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ。」の平均正答率は51.9%で、県の正答率を3.4ポイント上回った。	・具体物を用いながら各図形や立体の性質や定義を再度確認する。 ・県全体の無回答率と比較すると8.5ポイント上回っていることから、作図に対する苦手意識が強い児童が多いと考えられる。作図する機会を増やし慣れさせることで、苦手意識を軽減させたい。
変化と関係	●本領域の平均正答率は43.7%で、県の正答率を11.5ポイント下回った。 ●「表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える。」の平均正答率は64.6%で、県の正答率を15.8ポイント下回った。 ●「割合を使った比べ方について説明する。」の平均正答率は17.7%で、県の正答率を11.7ポイント下回った。	・割合のしくみについて、今後割合の単元の学習を実施する際に丁寧に振り返る。 ・無回答率が高いことから、問題に取り組むこと自体難しかった児童が多かった。そのため、自分で問題を読み解く力が必要であるので、授業で様々な問題に触れ、自力で解く活動を積み重ねていく。
データの活用	●本領域の平均正答率は36.2%で、県の正答率を8.6ポイント下回った。 ●「表の数が何の数を表しているかを答える。」の平均正答率は55.7%で、県の正答率を11.8ポイント下回った。 ●「折れ線グラフを読み取り、気温差が最も大きい月を答える。」の平均正答率は44.3%で、県の正答率を11.4ポイント下回った。	・グラフや表から必要な情報を読み取ることが難しい児童がいることから、算数だけでなく理科や社会など他教科でもグラフや表から情報を読み取る経験を積み重ねていく。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	39.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	55.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	68.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	58.8	67.2	64.6
観点	知識・技能	56.2	60.8	59.2
	思考・判断・表現	58.2	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●本領域の平均正答率は39.6%で県の正答率を4.7ポイント下回った。 ○「電流が同じ大きさの回路を選ぶ。」の平均正答率は43.8%で、県の正答率よりも1.7ポイント上回った。 ●「並列つなぎの名称を答える。」の平均正答率は50.0%で、県の正答率よりも10.5ポイント下回った。 ●「簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える。」の平均正答率は25.0%で、県の正答率よりも5.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な理科の用語については、定着が図れるように繰り返し指導する。 ・覚えるべき内容が身に付くようプリントで、繰り返し復習する。 ・授業で学習した法則やきまりと関係する身の回りの現象を、具体例を挙げて紹介することで、理科と実生活の関連性を高める。
「粒子」を柱とする領域	●本領域の正答率は55.5%で県の正答率を1.1ポイント下回った。 ○「水でっぽうから水が出る理由を選ぶ。」の平均正答率は77.5%で、県の正答率よりも15.2ポイント上回った。 ○「空気と金属をあたためたときの体積の変化の大きさを比べて答える。」の平均正答率は75.0%で、県の正答率よりも4.1ポイント上回った。 ●「仮説が正しかった場合の実験結果を選ぶ。」の平均正答率は25.0%で、県の正答率よりも7.9ポイント下回った。 ●「湯気について選ぶ。」の平均正答率は12.5%で、県の正答率よりも18.5ポイント下回った。	・日頃の生活や自己の経験、見聞などを理料的事象と関連付けて、児童の興味関心を高めるようにしていく。 ・身近な粒子に関する現象を、授業の中で実験をして確かめたり、具体例を挙げて紹介したりすることで、理科と実生活の関連性を高め、実感をともなって理解できるようにする。
「生命」を柱とする領域	○本領域の正答率は68.0%で県の正答率を1.1ポイント上回った。 ○「季節の順に並べたイチョウの記録を選ぶ。」の平均正答率は47.5%で、県の正答率よりも10.3ポイント上回った。 ●「腕をのばしたときの筋肉のようすを選ぶ。」の平均正答率は56.3%で、県の正答率よりも5.9ポイント下回った。	・身の回りにある自然現象に興味をもって学習に取り組むことができるように、児童が自分で疑問をもつことができるような導入をする。 ・予想を立てたり、結果から考察したりと、自分の言葉で説明する活動を充実させる。
「地球」を柱とする領域	●本領域の正答率は58.8%で県の正答率を5.8ポイント下回った。 ○「気温のはかり方として正しいものを選ぶ。」の平均正答率は66.3%で、県の正答率よりも6ポイント上回った。 ○「水の流れる向きを選ぶ。」の平均正答率は87.5%で、県の正答率よりも6.9ポイント上回った。 ●「雨の日の気温の変化のようすを選び、選んだ理由を答える。」の平均正答率は52.5%で、県の正答率よりも5.0ポイント下回った。 ●「星の色にはちがいがあることを答える。」の平均正答率は43.8%で、県の正答率よりも11.9ポイント下回った。	・日頃の生活や自己の経験、見聞などと関連付けながら、児童の興味関心を高め、授業外でも意識して天体や天候などに触れることができるようにしていく。 ・身の回りにある自然現象に興味をもって学習に取り組むことができるように、視聴覚教材を使って児童の興味関心を高め、実感をもち理解ができるようにする。 ・短答式や記述式で無回答が増えることから、理科の用語を用いてどのように書けばよいのかなど、具体的に指導していく。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という質問では、1時間以上勉強をするという回答が県の回答より、普段では5.5ポイント、学校が休みの日は7.1ポイント上回った。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている。」の質問でも、肯定割合は県より5.7ポイント高い。本校で5年生の家庭学習の目安とする1時間学習に取り組んでいる児童は、56.8%と半数を上回った。宿題だけでなく自主学習を推奨した結果、家庭学習の習慣が身に付いてきたと考える。ただ、家庭学習の時間や取組については、個人差が大きいので、個に応じた家庭学習の工夫と質の向上を図っていききたい。

○「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)。」という質問では、30分未満という回答が県の回答よりも12.8ポイント上回った。スマートフォンや携帯電話を持つ児童は増えているので、基本的なルールの順守など学校での情報モラルの指導に加え、家庭内でもルールを決めて安心・安全に使うことを啓発していくなど、継続した指導や啓発が重要と考える。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」という質問では、肯定割合は県より12.1ポイント低かった。宿題は授業で学んだことの復習を中心に行っているが、児童が進んで取り組みたくなるような内容の工夫・改善に努めていく。宿題に進んで取り組むことで授業での学びをさらに深め、学力向上に繋げたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか(テレビゲームはのぞく)」、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームをふくむ)をしますか」という質問では、3時間以上見たり聞いたりする児童が全体の3割を超えており、県より高かった。携帯電話やスマートフォンで通話やメール等をする時間は少ないが、テレビ・動画の視聴やゲームをする時間が長い児童が多いのが現状である。学級活動で子供たちがテレビやゲーム・スマホとの付き合い方を見直したり、テレビやゲーム・スマホなど決められた時間を設定して時間を守っていくように家庭に協力してもらったりと、引き続き指導していく必要がある。「毎日、同じくらいの時こくにねている。」の肯定的回答が県の回答よりも9ポイント、「時間を上手に使うことを、心がけている。」の肯定的回答が県の回答よりも5.3ポイント下回ったことも踏まえ、上手な時間の使い方についても指導していきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」という質問では、肯定的回答が県の回答よりも12.8ポイント下回った。タブレットの活用で簡単に漢字や言葉が検索できるようになったが、漢字を習得し語彙を広げるためには、国語辞典や漢字辞典を日常的に利用して調べる習慣を付けることが重要で、国語の学習で辞書や辞典を使って新出漢字等の読みや意味や筆順を調べる活動を取り入れるだけでなく、各教科の調べる学習の中でも積極的に利用する機会を設けていきたい。

●算数や理科で「学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている。」という質問では、肯定的回答が県の回答よりも10ポイント以上下回っている。児童が日常生活と学習内容のつながりを意識できるように単元の導入や課題設定を工夫するなど、授業展開や学習過程を考えることが大切である。

宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的に学びに向かう児童の育成	・「やってみたい」「知りたい」と思わせる教材・導入の工夫 ・家庭学習の習慣化	・「勉強をされていて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定割合は、4年生では85.7%で県の割合を1.5ポイント上回り、5年生では76.2%で県の割合より5.5ポイント下回った。 ・「家で学校の宿題をしている。」の肯定割合は、4年生では96.9%で県の割合を2.8ポイント上回り、5年生では92.1%で県の割合より3.8ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・読書の時間が短く、動画視聴やゲームの時間が長い。 ・記述式の問題で正答率が低く、無回答率も高くなる。	・読書の推進 ・家庭への啓発 ・自分の考えを書く機会の充実	・朝の学習の時間に読書に取り組ませたり、読み聞かせをしたりして、本に慣れ親しませる。 ・動画やゲームの時間について、家庭でのルール作りをしてもらう。 ・授業の中で、自分の考えや友達の考えをノートにまとめたり、振り返りを記述したりする時間を確保する。